

いのちの輝きを見つめる

Meiji

第145期
事業報告書

平成15年4月1日～平成16年3月31日

CONTENTS

株主の皆様へ	1
営業の概況（連結）	2
連結貸借対照表	6
連結損益計算書／連結キャッシュ・フロー計算書	7
単独貸借対照表	8
単独損益計算書／利益処分	9
業績の推移／連結対象子会社	10
Meiji News	11
新製品紹介	12
トピックス	14
子会社レポート	15
役員／従業員／主要な事業所	16
株式の状況	17

● 経営の基本方針

当社グループは、「夢と楽しさ、いのちの輝きを大切に、世界の人々の心豊かなくらしに貢献します」を企業理念に掲げ、「おいしさと健康」を創造するグローバルな企業集団として、これからもお客様にとって価値のある商品・サービス・情報を提供してまいります。

そして、お客様の喜びを大切にすることを第一に、社員一人ひとりの個性も尊重しながら、健全な収益体制のもとで活力ある発展を目指し、社会への責務を果たしてまいります。

● 中期的な経営戦略

当社グループでは「強くて、おもしろい会社」の実現をキーワードとした中期経営計画「チャレンジ2005」を策定し、各事業の売上高拡大と構造改革による体質転換の両面から収益力の強化を進めており、2005年度に、連結売上高4,000億円、経常利益160億円、当期純利益70億円を達成すべく、次の各項目に鋭意取り組んでおります。

1 各カンパニーの事業展開の方向について

- 食料カンパニーでは、チョコレート・キャンデー・ガム・ココア等の各カテゴリーの強化を図るとともに、高付加価値で差別性のある商品分野への事業拡大を積極的に行ってまいります。
- 薬品カンパニーでは、感染症と中枢神経系の2領域に集中・特化した「スペシャリティファーマ」として、その事業基盤をより強固なものにするため、営業力の強化、研究開発のスピードアップ、中国・アジア市場への展開強化等の諸課題に引き続き取り組んでまいります。
- ヘルスケアカンパニーでは、拡大を続ける健康関連市場において確固たる地位を確立すべく、「イソジン」「ザバス」「カラダナビ」の三大ブランドを中心に、食薬兼業の強みを活かした事業展開を進めてまいります。

2 構造改革の実施について

- トータルコストを削減しローコストオペレーションを実現すべく、生産体制の最適化、人事処遇体系の抜本的な見直し、棚卸資産の圧縮、収益還元価値の低い資産の売却、間接業務の集約・効率化等の諸施策を実施してまいります。

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当社は3月31日をもちまして、第145期営業年度を終了いたしましたので、ここに事業報告書をお届けし、営業の概況等をご報告申し上げます。

第145期の業績につきましては、後掲「営業の概況」に記載のとおりであります。わが国経済は、世界経済の回復を背景に、好調な輸出と民間の設備投資に支えられ、着実な回復を続けておりますが、若年層の失業率の高止まり等、雇用情勢は引き続き厳しい状況にあり、また、個人消費も、一部に持ち直しの動きが見られるものの、力強い改善には至っておりません。

こうしたなか、当社を取り巻く事業環境は、依然として厳しい状況にあり、食品に対する消費者の安全・安心への要求レベルの高まり、医療費抑制策が浸透するなかでの、薬価基準の大幅引下げの影響等、今後、当社が対処すべき諸課題が山積しております。

これらの諸課題に対処し、早期に利益水準の回復を図るため、前期に引き続き生産拠点の再編成や早期転身支援制度の運用拡大等の構造改革に取り組んでまいりました。さらに、2005年度に過去最高を上回る利益水準の実現を目標とした、経営計画「チャレンジ2005」を策定し、鋭意取り組みを進めております。

具体的には、「健康」をキーワードとして食料・薬品・ヘルスケアの三事業でシナジー効果の共有化による事業展開を進めるとともに、組織、要員、人事処遇体系、年金・退職金制度などの見直しを中心とした構造改革をさらに推し進め、コストダウンの徹底と筋肉質な事業構造への転換を図ることにより、業績の向上を図ってまいります。

また、社会や消費者の企業に対する要請や行動は、年々厳しさを増しており、企業の社会的責任、コーポレート・ガバナンスやコンプライアンスのありようが大きく問われておりますが、当社はこれに誠実に応えるべく、

社内体制を着実に整えてまいりました。

今後とも、お客様に安全で高品質な製品を提供するとともに、公正で透明性のある企業運営によって、Meijiブランドと企業価値の向上に努め、世界の人々の心豊かなくらしに貢献する企業として発展を期してまいりたい所存であります。

今後とも一層のご愛顧ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年6月

代表取締役
取締役会長

北里 一郎

代表取締役
社長

佐藤 尚忠



北里会長

佐藤社長

営業の概況（連結）

当連結会計年度のわが国経済は、輸出と民間の設備投資に支えられ、景気は緩やかな回復を続けておりますが、引き続きデフレの影響と雇用不安のなか、個人消費に力強い改善の兆しは見られず、総じて厳しい環境下に推移しました。

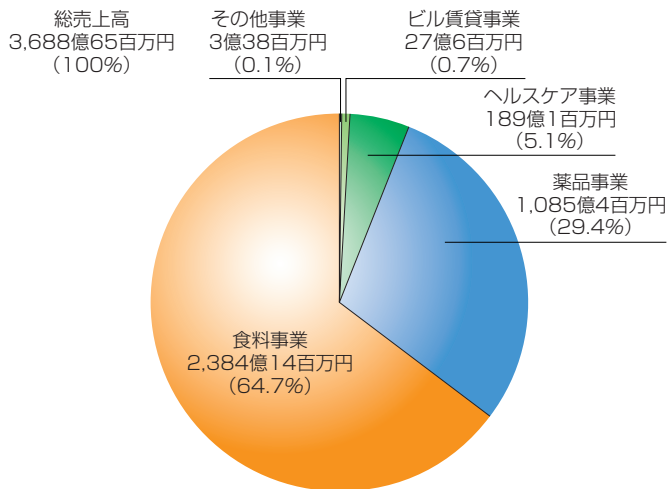
一方、世界経済は、米国経済が堅調な動きを見せ、回復基調にあるとともに、中国をはじめとするアジア経済が拡大傾向にあり、景気の先行きに明るさが見え始めております。

このような状況下、当社グループは、「既存事業による利益創出」「変化に対応できる社内体制強化」「新分野の開拓による成長実現」の3項目を経営方針に掲げ、各事業分野にわたり強靱な企業体質の確立と収益力の向上に努めました結果、当連結会計年度の売上高は3,688億65百万円（前連結会計年度比4.4%増）となりました。また、経常損益の段階におきましても前期を上回る業績となりましたが、経営構造改革の一環として、生産拠点の再編成や早期転身支援制度の運用拡大等を実施したことから、当期純利益は3億48百万円（同86.9%減）となりました。

当社グループのセグメント別売上高の状況は下のグラフのとおりであります。

なお、当連結会計年度の連結対象子会社は、10ページに記載しております。

●売上高構成比（連結）



食料事業におきましては、引き続き個人消費の低迷、輸入原材料の高騰に加え、BSEに関する規制強化等の影響など、厳しい環境下に推移しました。

このような状況下、当社グループは、主力品のブランド別トータルマーケティングの展開と差別性のある新商品開発により、売上の回復と拡大に努めました結果、連結売上高は2,384億14百万円（前連結会計年度比4.3%増）となりました。



菓子について品種別にみますと、チョコレートは、重点商品を中心に積極的な販促活動を展開し、拡売に努めましたが、冬季限定商品が低調に推移したことなどから、売上は前連結会計年度並みに止まりました。主力の「ミルクチョコレート」は昨年11月に品質の向上と斬新なCMを投入し、店頭露出強化に努めました結果、好調に推移しました。また、併せて品質向上を図った「ブラックチョコレート」も大幅に伸長しました。

ナッツチョコレートの「アーモンドチョコレート」は、引き続き人気サッカー選手のデイビッド・ベッカムをCMに起用して、重点的にマーケティング活動を展開し、堅調に推移しました。また、本年2月に新商品「アーモンドクラスト」を発売し、売上に寄与しました。一方、「フラン」は春夏向けの新商品「ノワール」「デュオ」を発売し、品揃えの強化を図りましたが、秋商戦における苦戦および冬季限定商品の「モアフラン」が暖冬の影響で低調に推移したことなどから、減売を余儀なくされました。

キャンデーは、主力の「チェルシー」が、競争激化で苦戦を強いられ減売となりましたが、グミは、季節限定商品や子供向け商品が好調に推移して大幅な増売となりました。



ガムは、主力の「キシリッシュ」のリニューアルを行うとともに、キャンペーンの実施やCMなど、活発なマーケティング活動を展開し、また、ボトルタイプの発売を機に一層の店頭露出強化に努め、大幅に売上を伸ばしました。

スナックは、主力の「カール」が、市場の低迷と競争激化で、減売を余儀なくされました。

ビスケットは、「マクビティ」ブランドが堅調に推移したほか、「コパン」の発売エリアの拡大、スティックタイプの新商品投入等により、大幅に売上を伸ばしました。

なお、P&G社との提携により、昨年7月から成型ポテトチップス「プリングルズ」の販売を、さらに、ファイザー株式会社との提携により、9月末からフィルムタイプの口中清涼剤「薬用リステリンポケットパック」の販売を、それぞれ開始して拡売に努めております。

また、「マキシム・ド・パリ」ブランドの高級菓子事業を譲り受け、昨年4月より国内連結子会社において事業を開始しました。

海外関係会社につきましては、明治製菓シンガポール社は、積極的な販促活動が奏効し、順調に推移しましたが、米国のスタウファー・ビスケット社は米国国内の競争激化で減売を余儀なくされました。

■菓子主要製品

チョコレート（ミルクチョコレート、チョコレート効果、ブラック、ストロベリー、メルティーキッス、ポルテ、アーモンド、マカダミア、カシューナッツ、アーモンドクラスト、フラン、きのこの山、たけのこの里、ホルン、ガルボ、レガ、ボーダ、ブッカ、アポロ、マーブル、チョコベビー、プチアソートほか）、キャラメル、キャンデー（チエルシー、ヨーグレット、ハイレモン、果汁グミ、ポイフル、キュン、もぎもぎフルーツほか）、ガム（キシリッシュほか）、スナック（カール、カールスティック、北海道ポテト、ピックアップほか）、ビスケット（マクビティ、コパンほか）



食品

食品について品種別にみますと、ココアは、消費者にその健康効果がさらに見直されたことにより市場が拡大するなか、拡売に努め、主力の「ミルクココア」を中心に大幅に売上を伸ばしたほか、高ポリフェノールの新商品「テオプロ」を発売し、品揃えの強化を図りました。

レトルトカレーは、「銀座カレー」シリーズのブランド力強化を目的とした販促活動が奏効し、増売となりました。

健康食品は、主力の「パーフェクトプラス」シリーズに新商品とリニューアル品を投入し、加えて、コンビニエンスストアを中心に店頭露出を強化して好調に推移しました。

また、業務用食材は、積極的な市場開拓と併せて新規商材の提案等が奏効して堅調に推移しました。

なお、国内連結子会社が販売する砂糖につきましては、主要取引先との取引条件の変更による影響を受けましたが、ほぼ前連結会計年度並みの売上を確保しました。



■食品主要製品

嗜好飲料（テオプロ、ミルクココアほか）、レトルトカレー（銀座カレーほか）、健康食品（パーフェクトプラスほか）、調理食品（JALスープ、おでんの素ほか）、清涼飲料、農産缶詰、業務用食材、砂糖、糖化製品

薬品事業におきましては、昨年4月に実施された健康保険の本人負担割合の引上げ、特定機能病院での入院医療の診療報酬包括化導入など、種々の医療制度改革による薬剤費抑制策が一段と強化されつつあり、業界環境はますます厳しさを増しております。

また、農薬・動物薬につきましても、市場の縮小に加え、生産者の低価格志向が一段と浸透し、企業間競争が激しさを増す厳しい事業環境に終始しました。

このような状況下、当社グループは主力製品を中心に着実な学術普及活動と積極的な営業活動を展開し、連結売上高は1,085億4百万円（前連結会計年度比5.3%増）となりました。

内容別にみますと、医療用医薬品におきましては、主力の抗菌薬では、市場が縮小するなか、カルバペネム系注射薬「オメガシン」、ニューキノロン系経口抗菌薬「スオード」は着実な市場開拓を行い、好調に売上を伸ばしました。また、主力製品の「メイアクト」「ハベカシン」は前連結会計年度並みの売上を確保しましたが、「ホスミシン」は競合品との競争激化により減売を余儀なくされました。

中枢神経系用薬におきましては、抗うつ薬「デプロメール」は着実な学術普及活動により引き続き順調に推移し、抗不安薬「メイラックス」も市場縮小のなか、前連結会計年度並みの売上を確保しました。

その他の医療用医薬品では、外用消毒薬「イソジン」、アレルギー性疾患治療薬「エバステル」がともに競争の激化により減売となりました。

農薬は、水稻の減反政策による厳しい環境下にあっ



て、主力のいもち病防除剤「オリゼメート」、除草剤「ハービー」が着実な販促活動により順調に伸ばしました。

動物薬は、既存販売品の堅調な推移に加え、昨年2月にエーザイ株式会社より動物薬事業を譲り受け、その売上が大きく寄与したこともあり、大幅な増売となりました。

海外事業につきましては、輸出は、世界的な医療費抑制策による厳しい事業環境のなか、国際戦略製品「メイアクト」の米国、中国、韓国への輸出が拡大し、大幅な伸長を見せました。

なお、国内連結子会社が販売するワクチンにつきましては、インフルエンザワクチンの需要増に伴い大幅に伸ばしました。また、化成品も、引き続き海外競合品との競争激化と国内外での需要減等による影響を受けましたが、ほぼ前連結会計年度並みの売上を確保しました。

海外関係会社の業績につきましては、東南アジアのP.T.メイジ・インドネシア社、タイ・メイジ社とも、各国国内市場での積極的な販促活動が奏効し、好調に推移しました。また、スペインのテデック・メイジファルマ社も価格競争の激化のなか、販売品目追加等により、好調に推移しました。

■薬品主要製品

医療用 医薬品	抗菌薬（メイアクト、ホスミシン、ハベカシン、スオード、オメガシン、シプロキサソールほか）、中枢神経系用薬（抗うつ薬デプロメール、抗不安薬メイラックス）、その他の医療用医薬品（外用消毒薬イソジン、アレルギー性疾患治療薬エバステル、抗悪性腫瘍薬テラルピシン、抗ウイルス化学療法薬ビクロックスほか）、人体用ワクチン、化成品
農薬 動物薬	農薬（Dr.オリゼプリンス、オリゼメート、ハービー、ジベレリン、アグレプトほか）、動物薬（メイポール、メイリッチ、パコマ、マイコバスター、ポセイドン、小動物用薬品ほか）、飼料添加物（コリスチン、セルラーゼほか）

ヘルスケア事業を取り巻く環境は、健康食品分野では、消費者のセルフメディケーションに対する意識や美容・ダイエットへの関心の高まりから



市場は拡大している反面、新規参入企業も多く、開発・販売競争が一段と激化する事業環境となりました。

また、一般用医薬品の分野では、個人消費の低迷と価格の下落傾向のなか、市場規模も停滞しており、シェア競争が激化する厳しい環境下に推移しました。

このような状況下、当社グループは新商品の開発に加え、主力ブランドの強化・拡大の積極的なマーケティング活動を展開した結果、連結売上高は189億1百万円（前連結会計年度比9.9%増）となりました。

内容別にみますと、健康食品は体力増強や疾病予防というニーズから、主力の「ザバス」はトップアスリートに対する栄養サポートに加え、スポーツ愛好者のブランド認知向上のための積極的な販促活動を展開して売上は好調に推移しました。また、「ローラ」「アミノコラーゲン」は明確な有用性がファン層を拡大し大幅な増売となりました。

昨年9月に発売した「カラダナビ」シリーズは、カラダ本来の働きを見つめ、食事・運動など健康に関わるすべてをサポートするブランドとして、着実な普及活動を展開し、売上に寄与しました。

一方、一般用医薬品におきましては、主力の「イソジン」各種製剤は価格競争が一段と激化するなか、宣伝、販促キャンペーンが奏効して大幅に伸長し、ミニドリンク剤「活蔘（かつじん）28」も大幅な増売となりました。



なお、国内連結子会社が運営するスポーツクラブ事業につきましては、競合店との競争激化のなか、積極的な集客力の向上に努め、堅調に推移しました。

■ヘルスケア主要製品

健康食品（カラダナビ、ザバス、ローラ、アミノコラーゲン、パーフェクトプラス、プロテインダイエットほか）、一般用医薬品（イソジンうがい薬、イソジンのどフレッシュF、外用消毒薬イソジンS、水虫・たむし治療薬バイクリアプラス、解熱鎮痛薬バイエルアスピリン、明治Gトローチ、かぜ薬ヘルビックS顆粒、ミニドリンク剤活蔘28ほか）

ビル賃貸事業

ビル賃貸事業につきましては、首都圏における大規模ビルの供給過剰による賃貸料の下落の影響に加え、テナント企業の事業縮小などにより、主力のオフィスビル「ソリッドスクエア」の入居率が低下するなど、極めて厳しい環境下に推移しました。

この結果、ビル賃貸事業としての収入は27億6百万円（前連結会計年度比11.0%減）となりました。

その他事業

国内連結子会社が運営するその他事業につきましては、2002年12月に飲食店を経営する子会社を譲渡したこと、また、レジャー・スポーツ施設を経営する子会社が長引く消費低迷やレジャーの多様化の影響を受けたことから、減売となりました。

この結果、その他事業の連結売上高は3億38百万円（前連結会計年度比78.0%減）となりました。

連結貸借対照表

(平成16年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
資産の部	330,059	317,798	負債の部	173,068	163,089
流動資産	154,610	147,364	流動負債	95,052	81,591
現金および預金	11,271	15,632	支払手形および買掛金	27,339	25,752
受取手形および売掛金	74,034	72,004	短期借入金	20,110	17,293
有価証券	—	40	コマーシャルペーパー	4,000	5,000
棚卸資産	51,231	47,974	未払費用	12,149	11,237
繰延税金資産	5,172	4,331	未払法人税等	4,305	1,758
その他の流動資産	12,961	7,451	賞与引当金	5,107	6,383
貸倒引当金	△ 60	△ 69	売上割戻引当金	5,550	5,675
固定資産	175,448	170,433	その他の流動負債	16,490	8,489
有形固定資産	138,821	138,869	固定負債	78,015	81,498
建物および構築物	69,303	73,457	社債	20,000	20,000
機械装置および運搬具	33,852	36,088	長期借入金	22,542	26,688
工具器具備品	2,406	3,035	長期繰延税金負債	13,105	10,055
土地	25,106	25,322	退職給付引当金	17,959	20,194
建設仮勘定	8,152	966	役員退職慰労引当金	422	461
無形固定資産	3,457	3,600	その他の固定負債	3,986	4,098
連結調整勘定	2,161	2,238	少数株主持分	2,441	2,486
その他の無形固定資産	1,296	1,362	資本の部	154,549	152,222
投資その他の資産	33,169	27,963	資本金	28,363	28,363
投資有価証券	28,949	24,779	資本剰余金	34,935	34,935
長期繰延税金資産	242	307	利益剰余金	84,575	86,969
その他の投資	4,962	3,995	その他有価証券評価差額金	9,133	2,915
貸倒引当金	△ 984	△ 1,118	為替換算調整勘定	△ 1,355	△ 754
資産合計	330,059	317,798	自己株式	△ 1,103	△ 206
			負債・少数株主持分および資本合計	330,059	317,798

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 207,656百万円 202,672百万円

2. 受取手形割引高 18百万円 104百万円

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
売上高	368,865	353,453
売上原価	213,616	204,859
売上総利益	155,249	148,594
販売費および一般管理費	147,266	142,699
連結調整勘定償却額	101	390
営業利益	7,881	5,503
営業外収益	3,063	3,302
受取利息・配当金	413	450
雑収入	2,566	2,719
持分法による投資利益	83	132
営業外費用	2,701	2,733
支払利息	1,318	1,486
雑損	1,383	1,247
経常利益	8,243	6,072
特別利益	1,768	4,235
投資有価証券売却益	1,039	2,161
固定資産売却益	473	1,972
関係会社株式売却益	121	38
その他の特別利益	133	62
特別損失	6,306	4,799
事業構造改善費用	4,824	2,143
固定資産廃棄損	806	1,746
本社移転費用	—	229
投資有価証券等評価損	—	440
その他の特別損失	675	239
税金等調整前当期純利益	3,705	5,507
法人税、住民税および事業税	4,963	4,679
法人税等調整額	△ 1,930	△ 2,001
少数株主利益	324	160
当期純利益	348	2,670

(注) 1株当たりの当期純利益 79銭 6円83銭

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
営業活動による キャッシュ・フロー	6,663	9,612
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 5,424	△ 13,814
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 6,028	△ 212
現金および 現金同等物に係る換算差額	84	△ 99
現金および 現金同等物の増減額(減少：△)	△ 4,705	△ 4,513
現金および 現金同等物の期首残高	15,290	19,808
新規連結による現金 および現金同等物の増加額	103	—
連結除外による現金 および現金同等物の減少額	—	△ 3
現金および 現金同等物の期末残高	10,688	15,290

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独貸借対照表

(平成16年3月31日現在)

(単位：百万円)

科目	当期	前期	科目	当期	前期
資産の部	298,881	285,135	負債の部	150,850	141,545
流動資産	128,966	123,868	流動負債	77,946	65,819
現金および預金	5,551	11,227	支払手形および買掛金	22,738	21,395
受取手形および売掛金	61,869	60,106	短期借入金	13,059	10,499
製品・半製品	27,114	23,182	コマーシャルペーパー	4,000	5,000
原材料	7,549	6,409	未払金	7,522	3,460
仕掛品	9,070	11,042	未払費用	9,812	9,218
繰延税金資産	4,252	3,424	未払法人税等	3,427	1,133
その他流動資産	13,578	8,500	賞与引当金	4,188	5,442
貸倒引当金	△ 21	△ 26	返品調整引当金	60	70
固定資産	169,915	161,267	売上割戻引当金	5,550	5,675
有形固定資産	122,414	121,719	その他流動負債	7,587	3,925
建物および構築物	63,820	67,971	固定負債	72,904	75,725
機械装置	26,530	28,147	社債	20,000	20,000
車両運搬具	57	82	長期借入金	18,742	22,332
工具器具備品	2,035	2,611	長期繰延税金負債	12,724	9,547
土地	21,966	22,203	退職給付引当金	17,199	19,470
建設仮勘定	8,002	702	役員退職慰労引当金	357	402
無形固定資産	632	753	その他固定負債	3,880	3,972
投資その他の資産	46,869	38,795	資本の部	148,031	143,590
投資有価証券	26,417	21,181	資本金	28,363	28,363
子会社株式	—	14,074	資本剰余金	34,935	34,935
関係会社株式	16,084	—	資本準備金	34,935	34,935
出資金	567	677	利益剰余金	76,855	77,606
関係会社出資金	1,409	340	利益準備金	7,090	7,090
長期貸付金	1,494	1,534	任意積立金	66,731	66,723
その他の投資	1,874	2,017	固定資産圧縮積立金	24,231	24,223
貸倒引当金	△ 977	△ 1,030	別途積立金	42,500	42,500
資産合計	298,881	285,135	当期未処分利益	3,033	3,792
			株式等評価差額金	8,980	2,858
			自己株式	△ 1,103	△ 172
			負債および資本合計	298,881	285,135

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 187,216百万円 182,998百万円

2. 受取手形割引高 18百万円 104百万円

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独損益計算書

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

(単位：百万円)

科目	当期	前期
(経常損益の部)		
営業損益の部		
営業収益	271,951	258,242
売上高	271,951	258,242
営業費用	268,058	255,499
売上原価	134,279	126,838
返品調整引当金戻入額	10	20
販売費および一般管理費	133,789	128,681
営業利益	3,892	2,742
営業外損益の部		
営業外収益	3,983	4,013
受取利息・配当金	1,155	1,172
雑収入	2,828	2,840
営業外費用	1,984	2,175
支払利息	1,089	1,153
雑損	894	1,021
経常利益	5,892	4,581
(特別損益の部)		
特別利益	3,906	4,163
関係会社株式売却益	2,319	—
投資有価証券売却益	1,039	2,161
固定資産売却益	464	1,965
その他の特別利益	82	35
特別損失	6,078	4,590
事業構造改善費用	4,824	2,143
固定資産廃棄損	723	1,594
投資有価証券等評価損	—	406
本社移転費用	—	229
その他の特別損失	529	216
税引前当期利益	—	4,153
税引前当期純利益	3,721	—
法人税、住民税および事業税	3,573	3,670
法人税等調整額	△ 1,822	△ 1,868
当期利益	—	2,352
当期純利益	1,971	—
前期繰越利益	2,409	2,788
中間配当額	1,347	1,348
当期未処分利益	3,033	3,792

(注) 1株当たりの当期利益 — 6円3銭
1株当たりの当期純利益 5円4銭 —

(備考) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

(単位：円)

	当期	前期
当期未処分利益	3,033,134,002	3,792,093,596
任意積立金取崩額	1,380,049,170	1,312,277,605
固定資産圧縮積立金取崩額	1,380,049,170	1,312,277,605
計	4,413,183,172	5,104,371,201
これを次のとおり処分いたします。		
利益配当金	1,340,755,861 (1株につき3円50銭)	1,347,752,858 (1株につき3円50銭)
取締役賞与金	29,600,000	26,400,000
固定資産圧縮積立金	201,122,627	1,320,476,829
次期繰越利益	2,841,704,684	2,409,741,514

(注) 1. 平成15年12月10日に1,347,616,512円(1株につき3円50銭)の中間配当を実施いたしました。

2. 当期における固定資産圧縮積立金の取崩額および固定資産圧縮積立金の積立額は、租税特別措置法に基づくものであります。

お客様コミュニケーション部がスタートしました

～皆様と明治製菓を結ぶ窓口～

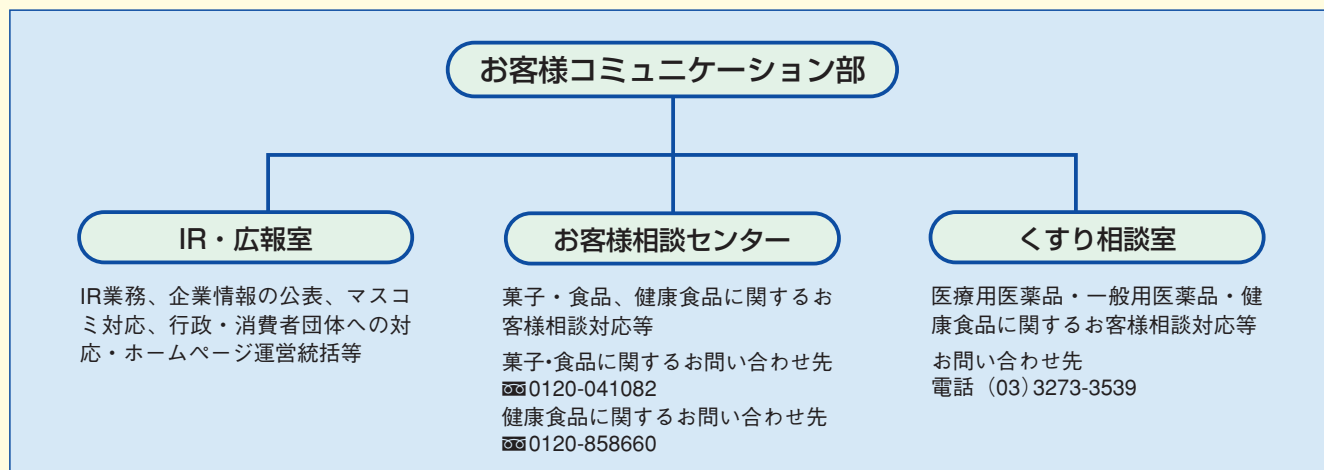
明治製菓は創業以来「買う気でつくれ明治」という一貫したお客様第一主義を会社の方針としてまいりましたが、このたびお客様への対応を担当する部署と機能を横断的な組織として一本化することとし、4月1日付で「お客様コミュニケーション部」を発足させました。

近年の企業活動は社会や環境への配慮、お客様との共存といったさまざまな面からその存在価値が評価されるようになってきました。特にCS (Customer Satisfaction = 顧客満足) という考え方が注目されてきており、各企業ともこうした活動に力を入れてきています。

当社も、お客様、マスコミおよび投資家の皆様に対し、開かれている企業窓口であるとの自覚を持ち、会社および製品に関するご相談・ご要望に対して誠実・迅速・的確に対応するとともに、ご意見反映のパイプ役としてCS向上に努めてまいります。



当社ホームページ



菓子・食品

●フランデュオ (期間限定品)

ふんわりホイップしたホワイトショコラにビター感を極めたショコラをコートしたダブルコーティングのフランです。



●フランワール (期間限定品)

ほど良くビターなホイップチョコの上に、ビターチョコを重ねた初めての二重構造のフラン。ふんわりとした口どけと、ビターチョコのキレとコクが楽しめます。



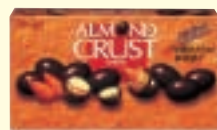
●フランジャンドゥーヤ (期間限定品)

ヨーロッパの伝統的なショコラであるジャンドゥーヤをフランオリジナルで仕上げました。ヘーゼルナッツとアーモンドペーストの薫り高くコクのあるおいしさが楽しめます。



●アーモンドクラスト

選りすぐりのアーモンドをサクサク食感の薄焼きクラストで包み、ミルクチョコレートでコートしました。



●クッキーinアポロ (一部地区発売・期間限定品)

つぶつぶいちごをたっぷり入れた甘酸っぱいチョコに、サクッとしたクッキーが入った洋菓子風のチョコレート。一粒ずつ可愛いいちご柄のアルミ箔で包みました。



●キシリッシュガムアクアグリーン

キシリッシュは「キシリトール十八イドロキシアパタイト配合」の機能性ガム。アクアグリーンはさわやかな地中海の水辺の色をイメージしたみずみずしい味わいのグリーンミント系ガムです。



●コパン

ノンフライ製法で、油分がポテトチップスの約半分。パン風味のシンプルな味わいの新しいタイプのスナックです。袋タイプはバタートーストとガーリックトーストの2品、カップタイプはハム&チーズとチキン&マヨネーズの2品です。



●たまひよビスケット

(株)ベネッセコーポレーションの人気育児誌とタイアップしたお母さんが安心して選べる優しいおいしさのビスケットです。



●テオプロ カップ

厳選カカオを使用したポリフェノールたっぷり(当社比2倍)のビターテイスト、「ミルク・甘さ」が調整できる自分流ココア。一杯分がわかりやすく、使いきりに便利なスティックタイプの5袋入り。



●テオプロ ボトル

当社独自の顆粒化技術を活かした、振出式の新タイプのボトルです。片手でも手軽に使える便利さと、卓上でもお洒落なデザインです。180gで約12杯分。



● パーフェクトプラス チョココーキ

10種類のビタミンと鉄、カルシウム、コラーゲンを配合した携帯しやすいタイプの栄養食品です。明治ならではのチョコ味です。



● 銀座カリールウ・中辛

煮込み感が味わえる「ペースト」と香り立ちのよい「フレーク」の2タイプのルウの組合せで、銀座カリールならではの芳醇な味わいです。



● ^{さい}菜カリ

「野菜」「ダイエット」「油っこくない味」をテーマにした新ブランドの提案です。カレーソースの75%を野菜と果実でつくったカロリー控えめのレトルトカレー。ベジリッチ、きのこリッチの2タイプ。



ヘルスケア製品

● カラダナビ プレサブリ

栄養素の「取り込み」と「流れ」のメカニズムに日本で初めて着目したサプリメント。生活習慣などの影響で実年齢以上に衰えがちな体内インフラ（栄養素の流れ）を整え、必要に応じて、カラダが求める栄養素をプラスします。薬局・薬店でお求めになります。



● カラダナビ運動プラン クエン酸飲料

発汗により失われる水分と、ビタミン・ミネラルを速やかに補給できます。運動時の発汗をトータルにケアするサプリメントです。薬局・薬店でお求めになります。



● カラダナビ運動プラン CoQ10

運動を無理なく行いたい方をサポートする元気の素、CoQ10を主成分としたソフトカプセルです。薬局・薬店でお求めになります。



● アミノコラーゲン 分包/ゼリードリンク

肌の衰えを感じ始めた女性向けの飲むコラーゲンに、粉末タイプとゼリータイプが加わりました。薬局・薬店でお求めになります。



● ザバス コンディショニングウォーター ボトル/ゼリー/パウダー

エネルギー生成に必要なコエンザイムQ10のほか、バリン、ロイシン、イソロイシンなどの必須アミノ酸、クエン酸などを配合し、疲労回復効果が高く、運動時の水分補給にも適したドリンクです。



● ファイゾ肌セルフ

天然保湿成分ポリグルタミン酸 (PGA) を配合、乾燥しがちな全身のうるおいを保ちます。ボディローションとボディソープの2タイプを用意しています。薬局・薬店でお求めになります。



● バイエルアスピリン100

ドイツ・バイエル社が開発した非ピリン系の解熱鎮痛薬で、1回5錠服用の小さい錠剤です。有効成分アスピリン（アセチルサリチル酸）が痛みや熱の原因物質の生成を抑えます。薬局・薬店でお求めになります。



ホームページサイト 「手作りチョコレシピ」が大好評

テレビ、新聞、雑誌、ラジオの4つの媒体に加え、第5の媒体であるホームページを、お客様が当社と直接触れ合う場として活用。特に2004年バレンタインシーズンに照準を合わせたチョコレシピサイトは、累計1,500万ページビューを記録、前年の75倍近いアクセス数となり大成功を収めました。チョコレシピサイトでは100種類以上のチョコレートを使ったプレゼントに最適な献立（レシピ）を紹介。特にバレンタイン直近の10日間はチョコレシピの電話・メールサポートセンターを開設。お客様の好評を得ました。



銀座カレー号登場！

昭和初期の古き良き時代の銀座のカレーを現代に再現した「銀座カレー」。この「銀座カレー」のレトロな世界観とおいしさを体感していただくため、2002年8月に期間限定で、東京・銀座に「銀座カレー館」をOPEN、大好評をいただきました。

これを受け、2003年度は、より多くの方にその世界観とおいしさを実感していただくために、スーパーなどの店頭で実施可能な「銀座カレー号キャラバン」を企画し、5月より大阪、11月より首都圏、名古屋にて実施いたしました。

銀座カレーの巨大なオブジェを載せた銀座カレー号と銀座カレーを試食していただくキッチンカーが店頭が登場。レトロで楽しい銀座カレーの世界観に触れていただくとともに、試食によって銀座カレーのおいしさを味わっていただくことで、多くの銀座カレーファンを獲得することができました。



Meiji Seika (Singapore) Pte. Ltd. (明治製菓シンガポール)

Meiji Seika (Singapore) 社の工場は、シンガポールの西部ジュロン地区にあります。シンガポール東部にあるチャンギ空港からは車で約40分、中心地シティーからは車で約20分の距離です。1974年に設立され、本年で30周年を迎えます。1982年に明治製菓が全株式を取得し、明治製菓グループの連結子会社として現在に至っています。

当社の生産している主な製品は、「ヤンヤン」「ハローパンダ」などのチョコスナック、「プチブランチ」「プレーンクラッカー」などのビスケット、「カルミン」などのキャンデー、砂糖や乳製品などの各種調製品です。これらの製品は、日本、シンガポールはもちろんのこと、世界約40カ国（アセアン、中近東、オセアニア、北米、ヨーロッパ）に輸出されており、**Meiji** ブランドを世界中に広めています。

従業員は契約社員を含め約170人が働いており、2003年度の売上高は70百万シンガポールドル（約45億円）でした。

現在、当社としてもっとも力を入れて取り組んでいるのが「食の安全と安心」です。この一環として2000年9月にISO9002を取得し、また、2003年3月には調製品についてHACCPを取得するなど、明治製菓の国内工場と同様の品質管理に取り組んでおります。

今後も、アジアにおける中心拠点として **Meiji** ブランドをさらに世界中に広め、多くの人に愛される製品を提供してまいります。



工場外観



ヤンヤン、ハローパンダ

株式会社明治スポーツプラザ

株式会社明治スポーツプラザは、明治製菓のスポーツ事業として平成2年の創立以来高槻店を皮切りに、新潟店、川崎店と店舗を展開してきました。そして、平成16年4月には4号店を埼玉県和光市（東武東上線・東京メトロ有楽町線「和光市」駅より徒歩1分）に出店しました。

和光店は延べ床面積約1,100坪の大型店です。施設はジム、スタジオ2面、プール（25m×5コース）、アトラクションプール（歩行用）、屋外ジャグジー、サウナ等で、駐車場（100台）、駐輪場（200台）を備えており、会員数4,000名規模のスポーツクラブです。

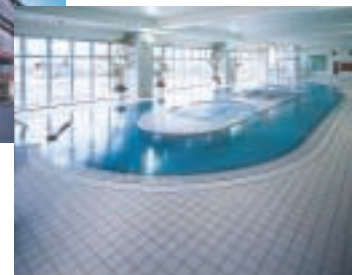
地域の皆様の健康と豊かな人生のためのかけがえのないコミュニティとなるようお客様の視点で考えた運動やフィットネスのサービスを提供してまいります。

また、食による健康作りのため、ショップコーナーでは「ザバス」や「カラダナビ」シリーズ等もフルラインで販売しております。

今後は、質の良いスポーツクラブの多店舗展開というビジネス戦略のもと、スピードとバランス、そしてタイムリーに積極果敢な事業拡大を図り、明治製菓の連結子会社として信頼されるスポーツクラブを目指してまいります。



和光店



アトラクションプール（和光店）

役員

(平成16年3月31日現在)

●取締役および監査役

代表取締役社長	北伊里	一 郎
取締役副会長	伊藤	明忠
代表取締役社長	佐藤	允男
※ 取締役専任執行役員	大高	昭和
※ 取締役専任執行役員	高山	和泰
※ 取締役専任執行役員	山成	信之
※ 取締役専任執行役員	小松	敏彦
※ 取締役専任執行役員	塚尾	正彦
※ 取締役専任執行役員	塚内	武雄
取締役専任執行役員	内藤	久昭
取締役専任執行役員	飯田	隆男
取締役専任執行役員	蓮金	恭邦
取締役専任執行役員	久澤	真貴
取締役専任執行役員	米	

(注) 上記※印の取締役は執行役員を兼任しております。

●執行役員

常務執行役員	長崎	正喜
常務執行役員	松長	幸道
執行役員	北原	史弘
執行役員	森屋	史宏
執行役員	蜂崎	直雄
執行役員	柴崎	羽治
執行役員	赤壁	正樹
執行役員	真高	秀彦
執行役員	溝橋	和彦
執行役員	大塚	和義
執行役員	佐藤	豊美
執行役員	入江	榮一
執行役員	福井	利文
執行役員	横路	文雄
執行役員	中村	諭紀

従業員

(平成16年3月31日現在)

従業員数	平均年齢	平均勤続年数
4,161名	39.6歳	16.8年

(注) 上記には臨時従業員は含まれておりません。

主要な事業所

(平成16年3月31日現在)

本社

東京都中央区京橋二丁目4番16号
(本社事務所 東京都中央区八丁堀四丁目6番1号)

営業所

食料／北海道統括支店（札幌）、東北統括支店（仙台）、首都圏統括支店（東京）、北関東統括支店（宇都宮）、中部統括支店（名古屋）、関西統括支店（大阪）、中四国統括支店（広島）、九州統括支店（福岡）
薬品／薬品札幌支店、薬品仙台支店、薬品東京支店、薬品関東支店（さいたま）、薬品名古屋支店、薬品大阪支店、薬品中四国支店（広島）、薬品福岡支店、農薬札幌支店ほか5農薬支店、動薬北日本支店（仙台）ほか3動薬支店
ヘルスケア／ヘルスケア東日本支店（東京）、ヘルスケア西日本支店（茨木）

工場

食料／関東工場（坂戸）、東海工場（藤枝）、大阪工場（高槻）
薬品／北上工場、小田原工場、岐阜工場（北方）、淀川工場（大阪）

研究所

食料／食料総合研究所（坂戸）
薬品／微生物資源研究所（小田原）、創薬研究部門（横浜）、医薬開発部門（横浜ほか）、生物産業研究所（横浜）
ヘルスケア／ヘルス・バイオ研究所（坂戸）

海外事務所

ロンドン事務所、シンガポール事務所、北京事務所

- (注) 1. () 内は、当該事業所が所在する都・市・町名を示しております。
2. 平成16年4月1日付の組織改正により、ヘルスケア東海支店（名古屋）を新設いたしました。

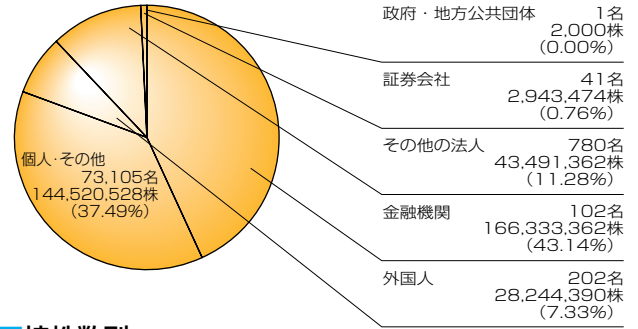
株式の状況

(平成16年3月31日現在)

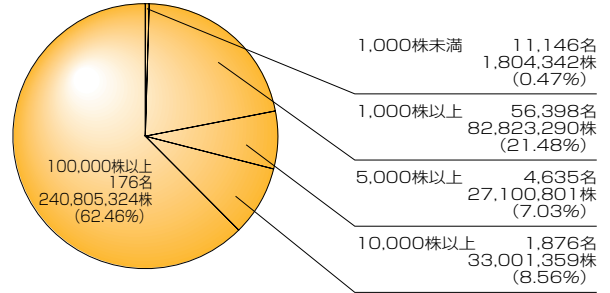
- 会社が発行する株式の総数 796,104,000株
- 発行済株式の総数 385,535,116株
- 当期中の名義書換件数 1,878件
- 当期中の名義書換株数 22,204,625株
- 株主数 74,231名 (前期末に比し,1,925名減)
- 1名あたり平均持株数 5,193株
- 大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (議決権比率)	
	千株	%
株式会社みずほ銀行	19,023	(5.03)
第一生命保険相互会社	16,163	(4.27)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	15,709	(4.15)
日本生命保険相互会社	14,942	(3.95)
日本トラスティサービス信託銀行株式会社信託口	13,480	(3.56)
富国生命保険相互会社	10,001	(2.64)
農林中央金庫	7,000	(1.85)
株式会社東京三菱銀行	6,804	(1.80)
東京海上火災保険株式会社	6,512	(1.72)
朝日生命保険相互会社	6,386	(1.69)

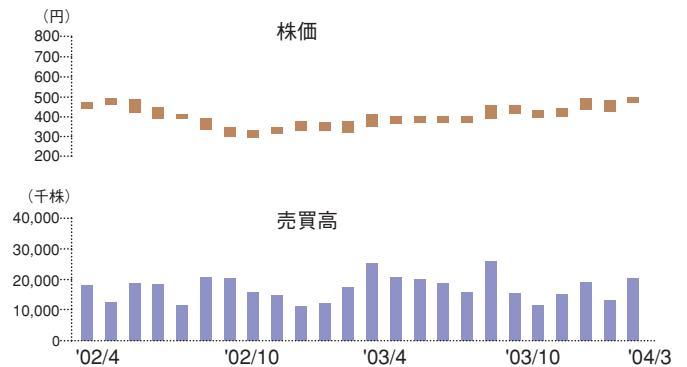
所有者別



持株数別



株価等の推移



株主メモ

決算期 3月31日

配当金受領 利益配当金 3月31日

株主確定日 中間配当金 9月30日

定時株主総会 6月下旬

公告掲載新聞 日本経済新聞

なお、第144期分より日本経済新聞に掲載する決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を以下のホームページで開示しております。

<http://www.meiji.co.jp/ir/koukoku.html>

名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社証券代行部

(電話お問い合わせ)
郵便物送付先

〒171-8508

東京都豊島区西池袋一丁目7番7号

三菱信託銀行株式会社証券代行部

電話 0120-707-696 (フリーダイヤル)

同取次所 三菱信託銀行株式会社全国各支店

実質株主の諸届に関する特例

届出の内容によって証券会社等を経由すべき場合がありますので、あらかじめお取引の証券会社等にご確認ください。

1単元の株式の数 1,000株

単元未満株式の買取および買増請求場所

名義書換代理人事務取扱場所および同取次所

(証券保管振替機関に預託されている単元未満株式については、お取引の証券会社等にお申し出ください。)

《お知らせ》

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができます。お手続には振込指定書のご提出が必要となりますので、名義書換代理人に用紙をご請求ください。
- 当社は、単元未満株式の買増制度を導入いたしました。単元未満株式(1,000株未満の株式)をご所有の株主様は、その単元未満株式と併せて1単元(1,000株)となる数の株式の買増しを請求することができるようになりました。制度の内容および手続の詳細につきましては名義書換代理人にご照会ください。

■株主様へのご優待

3月31日現在の1,000株以上所有の株主様に対し、以下の基準で当社製品を10月中旬に贈呈いたします。

- 1,000株以上：1,500円相当
- 3,000株以上：2,000円相当
- 5,000株以上：3,000円相当



●製品は一例です(2,000円相当)

明治製菓株式会社

〈お問い合わせ先〉

〒104-8002

東京都中央区八丁堀四丁目6番1号

電話 (03) 3273-3353 (総務部)



ホームページ (<http://www.meiji.co.jp>)

